

議 事 録

件 名	久留米市セーフコミュニティ再認証現地審査 学校安全対策委員会	
日 時	平成 30 年 7 月 31 日 (火) 13 : 30 ~ 14 : 30	
場 所	久留米シティプラザ 4 階 中会議室	
出席者	委 員	広津副委員長、古賀文雄委員、猪飼委員、新山委員、佐野委員、樋口委員、木本委員、諸藤委員、鹿毛委員、井上委員、今村委員、淵上委員、平田委員
	事務局	石橋主任、大峰指導主事、内田指導主事
欠 席 者	馬場園委員、綾部委員、古賀幸恵委員	
傍 聴 者		
次 第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 出席者紹介</li> <li>3. プレゼンテーション発表 「学校安全の取り組みについて」</li> <li>4. 質疑応答</li> <li>5. 閉会</li> </ol>	
質 疑 ・ 意 見 審 査 員 ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに対する安全教育は非常に大切であるが、教育の成果が出るまでには時間がかかるので、それまでの環境整備が必要となる。「教育」「環境」「規則(ルール)」の3つの側面から安全について考えていく必要があるが、スライド10やスライド23のように、全て教育の面からのアプローチになっている。意識を高めるまでの間の安全の確保、つまり環境整備の面が今後の課題となる。 (例えば、尖った場所でけがをしないように緩衝材をつけるなど)</li> <li>・けがの件数は、100人あたりや1000人あたりで見えていくと、推移の傾向がより見えるのではないか。</li> </ul>	
審 査 員 ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スライド5にあるように、廊下を走る子どもは世界中でも多い。子どもは廊下を走るものと思えば、走ってもけがをしないようにする工夫が大切である。これも環境整備である。例えば、廊下にセンターラインを引く、廊下の通り方のルールを徹底するなどが考えられる。ただ、階段の最後の数段をジャンプする子どもはけがに注意が必要である。</li> <li>・スライド15にある、遊びのルールとはどのようなものか。 (委員①) →子ども達が自分たちの目標を決めて、それを掲示するといった取り組みである。大変効果的な取組で、ルールを守って遊ぶ意識が高まった。</li> <li>・スライド20にある校区探検の取組は、年に1回ではなく、年に2回あった方が、子ども110番の位置を覚えるのに有効だと考えられる。</li> </ul>	

## 議 事 録

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ 今後は、けがの件数だけでなく、けがの重症度を考慮していく必要がある。軽微なけがやヒヤリハットのようなものを防止していくことが、大きなけがを防止することにもつながっていくと思う。</li><li>・ スライド30にあるいじめについては、いじめる側、いじめられる側だけでなく、傍観者にどのようにアプローチしていくかが重要である。</li><li>・ スライド34では、自転車教室でヘルメットを被っていない児童の写真が載っている。自転車教室からヘルメット着用を意識付けしていく方がよい。</li><li>・ 転倒しやすい子どもは、健康的な食事を食べていないというデータがある。児童会などを中心にして、ジャンクフードを減らす主体的な取組等があるとよい。<br/>(フードセーフティの視点)</li></ul> |
|--|